

## 第8回ITER機構職員募集の説明会(東京)でのQ&A

### 1. 日時・場所

平成20年8月28日(木)18:30~19:40  
東京・新橋 航空会館 504会議室

### 2. 参加者:7名

### 3. 説明内容

- 1) ITER計画の概況
- 2) ITER機構職員公募の状況

芳野隆治 ITERプロジェクトユニット長

- 3) ITER機構職員公募の面接試験について(面接試験の模擬ビデオを用いて)

北澤真一 ITER計画管理グループ

### 4. 説明会でのQ&A

Q1:建設スケジュールに関して、現在サイトの土地整備と超伝導コイルの製作を同時に行っているのか？

A1:現在カダラッシュのITERサイトではサイト極である欧州によりサイト整備が進められ、参加極の一部(日本、欧州、ロシア)では超伝導コイルの導体の製作が開始されています。このように、ITER建設スケジュールに従い、並行して作業が進められています。

Q2:日本からの人材貢献を35-45人に増やすことはITERプロジェクトに対する日本の影響力を高めると思うが、35年のITERプロジェクトという期間でみたときどのような成果を得るのが目的か？

A2:ITERプロジェクトの目的は、①核融合燃焼の実証、②核融合燃焼プラズマの定常運転③核融合エネルギー取り出しの試験です。長期で見た場合は、ITERプロジェクトの目的は、ITERの次の核融合炉の開発ステップである原型炉建設のために必要な技術ノウハウを取得することです。このため、本プロジェクトへの人的な貢献は、原型炉の建設へ繋ぐためのノウハウの取得と技術の継承の観点から非常に重要と考えています。

Q3:採用された人に期待することは何か？

A3:ITER計画の目的達成への貢献に期待しますが、核融合炉の開発の観点からすれば、ITERプロジェクトという大きな国際プロジェクトでの経験を積んで、次の核融合炉開発に繋がる貢献をしていただきたいと期待しています。

Q4:住宅探しなどの生活立ち上げ支援はどうなっているのか？

A4:HPIにも紹介しているが、ITERフランスという支援機関が、カダラッシュ近郊での住宅探しなど、ITER機構職員に対して生活立ち上げのための支援を行っています。

Q5:応募するポジションの数に制限はあるか？

A5:これまで1人あたりの応募について3ポジションまでだった応募ポジション数の制限が最近撤廃されました。これにより、いくつかのポジションでも、且つ、前回までの応募結果が不明であっても、重複して応募することができるようになりました。

Q6:フランス語ができたほうがいいのか？

A6:ITER機構での仕事の公用語は英語なので、英語ができれば基本的に問題はありません。ただし、フランス語が必要とされるポジションもありますので、Position Descriptionでの記載事項に注意して下さい。フランスでの生活では、フランス語が話せた方がレストランなどでの待遇が良くなるなどのメリットはあるようです。

Q7:ITERフランスの支援に、フランス語のレッスンはあるのでは？

A7:そのとおりです。ITER機構職員は無料でフランス語のレッスンを受けることができます。

Q8:今回の募集は9月30日が締切りだが、今後も引き続き募集はあるのか？

A8:今後も募集はあると推察しています。少なくとも再募集や交替ポストは、今後も間違いなく公募されると推察しており、このために職員公募は今後も継続されると見えています。

Q9:今後の募集ではP5→P4→P3というように、ジョブグレードが次第に下がることになるのか？

A9:職位の高いポジションから公募するというのは、リクルートにて一般的になされることです。

ITER機構においてもその傾向にあるのは確かです。ただし、交替ポストなどで、D1(部長級)のポストが公募される場合もあります。

Q10:今後の募集で、新卒が受けられるポスト(職位ではP1-2)は出てくるか？

A10:ITER機構が回答すべき質問のため、ITER機構に確認してから回答させて下さい。

以上